

「グループ中国だい好き」会報

『中国だい好き』

我们很喜欢中国!

Women hen xihuan zhongguo!

●代表 内田知行 042-464-8858

〒203-0034東久留米市弥生2-7-13

●編集・発行グループ

内田知行 千田茂

●<http://medialab.o.oo7.jp/china/>(ホームページ)●<http://www.kurukuru-ch.com/>(くるくる)

前回に続き、今回は初級A班の講師に教室を紹介していただきました。

避諱について

初級A班講師 勝木 節子

今年8月、蘭希・ペロシ(ナンシー・ペロシ)氏訪台時、中国の軍事演習が連日ニュースに上がりました。この軍事演習を中国では「演訓yǎnxùn」と言っています。演習は中国語でも「演习yǎnxí」で、演訓というのはどうやら造語のようです。記事の内容はともかく、演習と演訓の違いに言及する中国ネットユーザーのコメントが散見されました。『想多了，只是避讳而已～(考えすぎ、避諱にすぎないのだ～)。』『新时代避讳。演习也不能说了现在全叫演训(現代の避諱。演習という言葉は使えなくなり、これからはすべからく演訓と言うのです)。』

中国には避諱(ひき)という慣習がありました。皇帝の諱を文書に記すことや口にすることは、極めて非礼なことと考えられました。なので避諱に触れる文字を含む人名や地名なども、たとえ長く親しまれた名であったとしても変更を余儀なくされました。著名な例として、仏典のAvalokiteśvaraを漢訳するにあたり、東晋の鳩摩羅什訳「観世音菩薩」を、玄奘は「観自在菩薩」と訳しました。唐の太宗(李世民)の諱である「世」を避けねばならなかったからです。また清の康熙帝の諱「玄燁」を避け、玄孫のことを「元孫」、紫禁城の玄武門を「神武門」に改めた例。これに関しては、各文字の最後の一面を記さない「欠画」という避諱の例としてもよく知られます。皇帝ではありませんが孔子の諱の「丘」を避けて「邱」に改めさせられた韓国の大邱。(Wikipediaより) 更に晋の文帝の諱が「昭」だったために、中国四大美女の一人「王昭君」を「王明君」と言い換え、前漢の景帝の諱が「劉啓」であったため、「啓封」は「開封」と改められたなど、皇帝の数だけ使うことのできない字があったと言えます。

今回の避諱疑惑は習近平氏に配慮したものと思われませんが、話は変わって数年前に「習遠平」という名前が話題になりました。この方は習近平氏の実弟です。「平」が共通で、その上「遠・近」という対になる漢字を兄弟で使用していて、なかなかのセンスを感じるネーミングです。習近平氏の父親の習仲勳氏も中国政府の要人で、国務院副総理を務めました。前妻との間の子はそれぞれ習和平・乾平・富平。その後再婚しもうけた二人の息子が、近平氏と遠平氏です。全ての息子に「平」の字を与えていました。ちなみに建国の祖・毛沢東にも、沢民と沢覃という二人の弟がいました。兄弟で「沢」の字を共有しています。李克強首相にも克平、克明という兄弟がいます。有名な宋家の三姉妹は宋靄齡・慶齡・

美齡ですね。このように兄弟間で名付けの字を共有することを輩行字(はいこうじ)と言います。

日本でも同一家系で代々同じ漢字が使われることがよくあります。織田家は「信」、豊臣家は「秀」、徳川家は「家」や「吉」。このような家系共通の字を通字(とおりにじ)というそうです。中国では同じ漢字を使うのは親子間ではなく、兄弟や従兄弟といった同世代間です。つまり日本の名付けが縦並びなら、中国は横並びなのですね。日本では極めて自然な親や先祖の名を貰うことが、中国では避けられます。これも一種の避諱なのでしょう。むしろ避諱の原型かもしれません。

血の繋がった兄弟ではない、いわゆる「兄弟分」の名づけにも輩行字を用いることがあります。有名などころではみなさんご存知の西遊記、三蔵法師の弟子の三人です。確かに孫悟空、沙悟浄には「悟」の字が使われてますが、はたして猪八戒は？ 実は猪八戒とは三蔵法師から与えられた別名で、観音菩薩からもらった本名があり、猪悟能(ちよごのう)と言うのです。ちゃんと「悟」の字が入ってますね。

初級A班では教科書の内容から脱線して、このような私の日々の思いつきを話させて頂く機会があります。そんな我儘を許して下さるのは受け皿の大きい、尊敬してやまない学生皆さんのお陰です。今のウクライナ情勢や日本と世界の状況を、先頃ご逝去された老同学齋藤勝義さんならどのように分析なさるでしょう。できることならもう一度警戒に接したいと思う、秋の日です。

中国語教室 生徒募集

クラス	講師	授業日時 教科書など	教室会場
初級A	勝木 節子	土曜 18:00~20:00	中央町地区センター
初級B	任 韶華	土曜 13:30~15:30 汉语听力速成 基础篇 (北京語言大学出版社) + 副教材	久留米中学校 生涯学習センター 八幡町地区センター 中央町地区センター
中級	羅 敏	月曜 10:00~12:00 『時事中国語の教科書』	生涯学習センター 市民プラザ 東部地域センター
会話 (話そう朋友)	金野 蓓蕾	火曜 10:00~12:00 自由会話 + 副教材	生涯学習センター 東部地域センター

入会金 1000円 年会費 1000円(新会員は入会金で充当)

運営費(月謝, 会場費など)毎月4,000円。2クラス目は月2,000円で聴講できます。

各クラスとも授業見学を歓迎します!

- 問い合わせ zuixihuanzhongguo@gmail.com
- 広報 ホームページ <http://medialab.o.oo7.jp/china/>
くるくる <http://kuru-chan.com/>

月餅

初級B班講師 任韶華

如果你問我喜歡吃什麼月餅，我會毫不猶豫地回答：老北京的“提漿五仁月餅和自來紅月餅”。雖然現在提漿五仁月餅已經成為了過去，好在自來紅還在。每年回北京的時候，我都要買幾塊兒來享受，滿足一下我的懷舊之心。兒時的記憶是深刻的，儘管現在中秋前後上市的月餅種類數不勝數，我却依然鍾愛着我的老五仁和自來紅。



老五仁兒月餅

三年沒回北京了，思念之情逼我自己動手烤製了五仁月餅，用以撫慰我那按捺不住的欲望之心。下面的照片是我自己烤的五仁月餅；文章是我2019年8月寫的吃月餅有感。文章用了一些北京方言，可能有些難懂，非常抱歉！

今兒到永輝超市买东西，看到有賣散裝老五仁兒月餅。沒猶豫，來了兩塊兒，一共花了7塊9，合4塊錢一塊兒。沒想着味兒怎麼樣，也不是奔便宜，就奔那形狀和那個“老”字兒。

回到家，拆開塑料袋兒，掰了半塊兒，咬了一口。細細嚼來，嘿嘿，味道還真不錯，是小時侯五仁兒月餅的味兒，不過沒有冰糖，少了嘎嘣嘎嘣的嚼勁兒。再說那皮兒，有厚度，比廣式月餅可有嚼頭，如若在乾燥地兒放幾天，一准兒

可以像早前兒的提漿月餅啃着吃。其實我小時侯吃月餅，比起餡兒來，更在意皮兒，就是喜歡啃那月餅的硬皮兒。找完了味道和口感，再細查餡兒料，有瓜子仁兒，花生仁兒，黑芝麻仁兒，白芝麻仁兒，這第五仁兒到底是啥就實在是找不出來了。沒有松子仁兒，怎么着也該有核桃仁兒吧？！許是核桃仁兒太貴，減了。大概只有我這懷舊的人才會這麼掰扯着數人家的五仁兒，一般的，扔嘴里嚼個味兒得了。除了四仁兒，還有葡萄干兒，冬瓜條兒和青絲兒。過去有青絲兒就必有紅絲兒，這沒了紅絲兒就少了顏色嘍。

雖有一些遺憾，但還是基本滿意的。懷舊的人們可以買兩塊兒尝尝，找找小時侯的感覺，估計不會讓大家失望的。

2019年8月26日寫於北京家中



きょう国交正常化50年

日中国交50年 成果と課題

成果



日本と中国の友好都市協定 **393**
(日中友好協会による)

往来 2019年 日本 → 中国 **268万人**
中国 → 日本 **959万人**
(中国文化観光省統計、日本政府観光局統計による)

課題

	日本	中国
尖閣	「領有権問題存在せず」	「釣魚島(尖閣)は中国の領土」
台湾	中国の「武力統一」に憂慮	「台湾は中国の一部」

政治体制の違い

歴史 人権

写真は、時事、共同



日本と中国は国交正常化から二十九日で五十年を迎えた。日中は互いに欠かせぬ隣国として歩んだ一方、安全保障や歴史認識を巡って緊張が続く。五十年の節目を前に、中国の孔鉉佑大使「写真」が東京都港区の大使館で本紙の単独取材に答え、「中日の関係発展は両国民に大きな利益をもたらした。新しい時代にふさわしい二国間関係を構築し、次の五十年につなげたい」と強調した。

「一問一答」トキ復活の友情の面

孔鉉佑 駐日大使に聞く

孔氏は歴史、台湾、領土などの問題が両国関係を妨げてきたとの認識も示し、岸田政権による中国の脅威をふまえた防衛費増大を目指す動きに対して「強い懸念を持っている」と言及した。日本側に対し、「互いに協力のパートナーであり、互いに脅威にならない」と明記した日中間の政治合意を「しっかり守るべきだ」と注文をつけた。

一方、中国の軍事費増大に日本など周辺国から懸念があるとの指摘には「中国が軍事能力を発展させるのは、正当な国家安全保障上の利益を守るためだ」と主張。沖縄県・尖閣諸島が中国固有の領土であるとも主張し、尖閣周辺での中国艦船の活動を正当化した。

また、八月上旬のペロシ米下院議長の台湾訪問後に、中国が大規模な軍事演習を行ったことについては「米国が先に挑発をしかけ、中国が正当な措置を取らざるを得なかった。日本に向けられたものではない」と説明した。香港や新疆ウイグル自治区の人権状況に関する懸念は「米国や西側が中国をけん制するための政治的な口実」と退けた。

経済分野でのつながりについては「中国は日本から経験や資金、技術などを導入し、日本も急成長した中国市場から多大な利益を得た」と評価した。経済安全保障の観点から日中の経済を切り離す動きに警戒感を示し、「多国間主義や自由貿易体制をしっかり守るべきだ」と訴え、日中韓での自由貿易協定(FTA)締結にも意欲を示した。

日中首脳の間での会談は新型コロナウイルス禍によって二〇一九年から途絶えている。孔氏は「コロナが収束に向かうのにもない、首脳会談の機会が生まれるだろう」と指摘し、今秋に予定されている国際会議などでの会談実現に前向きな姿勢をみせた。

日中国交正常化50周年 東京国立博物館150周年

特集 中国書画精華 一宋代書画とその広がり一

東洋館8室

2022年9月21日(水)～2022年11月13日(日)

室町時代以前に日本に渡ってきたと考えられる、「古渡(こわたり)」の宋代書画は、高邁(こうまい)な人格と深遠な学識に裏打ちされた禅僧の書画、高い技術力に支えられた優美な宮廷絵画、貿易港である寧波で人気を博した仏教絵画などが中心でした。これらを通じて日本で育まれた宋代への憧れは、その後、近代になって大陸からもたらされた「新渡」の作品によって、より強固なものとなりました。「新渡(しんわたり)」の宋代書画には、本場中国で正統と評価され秘蔵されてきた、文人士大夫(しんたいふ)の真筆や代表作が多く含まれます。

(東京国立博物館ホームページから)